

“すばらしきみえ”

FOR NICE COMMUNICATION

2020.10
218号

■特集／“福神さま”を訪ねて元気に！ 勢州七福神めぐり

●いま、グループネット／町屋百人衆 ●みえを歩こう／鳥羽市 市街地～樋の山



勢州七福神めぐり

「福神さま」を訪ねて元気に!



毘沙門天

東光山 神宮寺



布袋尊

松雲山 久安寺



福祿寿

金剛山 泉壽院



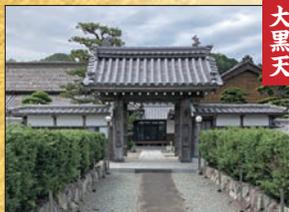
弁財天

瑞鷲山 白言寺



寿老人

玉樟山 隣江寺



大黒天

含笑山 昌慶寺



多比す天

不盡山 龍祥寺



大黒天・毘沙門天・多比す天・寿老人・福祿寿・弁財天・布袋尊。これら七柱の福徳の神様は「七福神」と総称されます。参拝すると、さまざまに「福」を授かるという七福神信仰は、室町時代末期ごろから広まったと伝わります。現代でも多くの人々に親しまれ、七福神を祀る社寺を巡拝する「七福神詣で(参り)」も盛んに行われています。

今回は、県内中勢地域の曹洞宗寺院7か寺で実施している「勢州七福神めぐり」をご紹介します。地図上の各霊場を結ぶとハート形になるため、右回りに回るとカップル・夫婦円満、左回りすれば、良縁祈願・恋愛成就がかなうとされています。この秋、個性豊かな「福神さま」たちに会いに行ってみてはいかがでしょうか。

●参拝方法

- 1 本堂前で合掌礼拝してから、堂内に入ります。
- 2 まず、本尊様を礼拝してください。
- 3 七福神さまの前で合掌二礼、二拍手、合掌一礼。
- 4 お参りを終えたら、本尊さまに合掌礼拝してください。

*各礼所の参拝時間は、9時から16時30分となっております。また、時間内であっても、檀務・法事などに対応できない場合があります。必ず事前に到着日時・人数などの連絡をお願いします。

*各礼所で行われる祭礼・法要などの開催日時・受入れ方法・料金などは、それぞれに異なり、変更する場合もあります。必ず事前にご確認ください。

取材・文：中村真由美

中村元美

撮影……梅川紀彦

尾之内孝昭

ただし※印の写真は取材先から提供していただきました

取材・撮影は6月中旬～7月上旬に行いました

愛嬌たっぷりの布袋尊と住職の占いで「元気になれる」

布袋尊 松雲山 久安寺

【多気郡明和町】



見るだけで元気になれる布袋尊

七福神の中で、唯一実在したとされるのが布袋尊です。中国の伝記によれば、唐の禅僧・布袋和尚といわれ、そのお腹はとて大きく、いつも額に皺を寄せて笑っていたといわれます。また、背負っている大きな袋の中身は尽きることがなく、雪の中で寝ていても濡れず、

があることされ、広く親しまれています。布袋さんに会いに久安寺を訪ねると、住職の種井 秀敏さんが温かく出迎えてくれました。まずは、寺の縁起について伺うと、創立は明応7(149



種井 秀敏住職

8)年ごろで、曹洞宗寺院としての開創は元禄5(1692)年だと教わります。この時、僧の鶴翁龍渚が津市の四天王寺から18世悟溪養頓を迎えて寺を建立したと伝わります。 続いて、布袋尊について話を聞くと、代々伝わる像は秘仏のため、本尊の聖観世音菩薩像前にある厨子内に安置されていて、見ることができないということでした。しかし、本堂横には高さ50センチメートルほどの像が祀られ、見事な太鼓腹と大きく口を開けた姿は、愛嬌たっぷりです。参拝していると、自然と心が和んでくるのがわかります。この布袋尊の由来について伺うと、意外にも熱心な信者から寄進されたという返事。また、随所で見られる布袋尊像もほとんどが寄進されたもので、「いつの間にか集まっていたね」と微笑む住職からは、おおらかな人柄が伝わってきます。 また、町内の畠田神社祭礼の際に使用されていた大きな獅子

頭も受け継がれていると聞き、見せていただきました。室町時代末期の作と伝わり、高さは約23センチメートル、横幅は約28センチメートル、奥行きは約35センチメートルあり、存在感十分です。クリクリとした大きな瞳と、デンとした大きな鼻も憎めない表情です。 さらに、久安寺で特筆すべきは、状況に応じて、住職による占いが受けられること。県内はもとより、関東圏や九州などから、占いを目的に来訪する方も多いといえます。その内容の多くは

恋愛や縁談ですが、住職は「占いを通してその方の不安や苦しみを取り除いたり、生き方を築くお手伝いができればと願っています」と話します。なお、「勢州七福神めぐり」の七霊場をすべて参拝し、満願成就した人には、開運・恋愛占いを無料で施術するという特典もあるとのことでした。 久安寺を訪ねて、愛嬌たっぷりの布袋尊と、じっくりと話を聴いてくれる住職に会えば、笑顔になって帰ることができるでしょう。



布袋尊像などを祀る祭壇



久安寺本堂



本尊の聖観世音菩薩像を祀る須弥壇



秘仏の布袋尊像を安置する厨子



獅子頭(明和町指定有形文化財)

お問い合わせ

松雲山 久安寺

TEL 05996-5551-3371

眼光鋭い毘沙門天、156枚の絵天井が見事

毘沙門天 東光山 神宮寺

【松阪市嬉野森本町】



本堂を彩る絵天井

毘沙門天を祀る神宮寺を訪ねると、城郭のような見事な石垣が現れます。かつてここには北畠氏一族の森本氏が居城としていた森本城があったのです。同寺が城跡に建つまでの経緯を、住



西村 倫也住職

職の西村倫也さんに伺うと、開創は天平2(730)年に遡ることがわかりました。光明皇后の発願で、僧行基が旧嬉野町内の山の中に利勝山瑠璃光殿を建立したのが始まりです。この時、安置されたのが、慈覚大師の一刀三礼彫刻の三体の薬師如来像でした。なお、一刀三礼とは、仏像に鑿を1回入れる度に3回礼拝することだと教わります。

そして開基は、室町時代のこと。多賀(旧姓森本)飛騨守正能が、現在の嬉野森本町内の別の場所に醫王山神宮寺を建立し、三体の像の内の一体を本尊として迎え入れたのです。なお、この

像には織田信長にまつわる話が伝わります。それは、神宮寺を焼き討ちしようとした信長の両眼が突然見えなくなったというものです。後悔した信長が篤く供養したことで焼失を免れた同寺でしたが、その後は北畠氏一門の滅亡とともに廃絶寸前になります。しかし、江戸時代に曹洞宗寺院として再興し、その際に山号を東光山と改めました。天明8(1788)年には、紀伊徳川家より寺領を許され、現在地の森本城跡に移築されたのです。

同寺の数奇な歴史は、さらに続きます。明治43(1910)年の台風で本堂が倒壊したのです。その再建の際に発案されたのが、絵天井による志納でした。県内だけでなく、名古屋市内などからも浄財が納められ、完成したのは大正6(1917)年のことでした。

「中国地方の絵師4、5人に描いてもらったと聞いています」と、住職の説明を聞きながら天井を見上げると、ケヤキの板一枚ごとに色鮮やかな絵柄と、

ご先祖様の戒名かいなまう施主名などが見えます。絵柄は豊富で、ボタン・ブドウ・スズメ・ウサギなどの動植物に加えて人物や富士山、龍などがあり、見ごたえ十分です。神宮寺の歴史に欠かせない本尊の薬師如来像は、秘仏のために目にすることはできませんが、毘沙門天像は可能です。インドにルーツがあるとされる毘沙門天は、勝運の武神として、武士階級の信仰を集めたことでも知られま

す。今では、商売繁盛・財運招福開運上昇・降魔厄除にご利益があるとされますが、甲冑かろうを身に付け右手に鉾ほこを持つ勇ましい姿が一般的です。本堂に祀られている毘沙門天像は平安時代後期の定朝作と伝わり、高さは86センチメートルあります。右手は鉾を持っていますが、左手は何も持たずに掌を左腰に当てていて、優美さが漂います。しかし、眼光は鋭く、心の



【「ばけ封じ祈願祈禱大法要」】※



神宮寺本堂



白寿観世音菩薩像



毘沙門天像※
(松阪市指定有形文化財)

ほかにもあります。高さ4メートルの白寿観世音菩薩像です。白寿とは99歳のことで、健康長寿を保ちたいと願う気持ちに込めるため、30年前に安置されました。以来、「ばけ封じの寺」としても信仰を集め、毎年10月に「ばけ封じ祈願祈禱大法要」が行われます。本年は10月17日(土)11時から13時までの予定で、当日受付も可能です。一度、訪ねてみてはいかがでしょうか。

お問い合わせ

東光山 神宮寺
TEL 05998-4312228

※印の写真は取材先から提供していたきました



大黒天 含笑山 昌慶寺

【多気郡多気町】

訪問者を癒してくれる大黒天

文明年間(1469~1487)に五箇篠山城主が開基したと伝わる昌慶寺。ここで出会えるのは、商売繁盛・財運招福五穀豊穰・出世開運にご利益がある大黒天です。高さは約20センチメートルですが、福袋と打ち出の小槌を持つて、米俵の上に乗る姿は存在感十分。穏やかな笑みをたたえた表情を目にすると、思わず頬が緩みます。

「天保12(1841)年のものと伝わりますが、平成になって修復して、色鮮やかにになりました」と話すのは、住職の田中 藤左衛門は、滋賀県の鋳物師だと教わります。そしてもう一つ、雲版とは、禅宗寺院で時報の合図などに打ち鳴らす雲形の板のこと。同寺のものは、慶長9(1604)年に作られた青銅製で、縦が56センチメートル、横が52センチメートル。ご厚意で間近で見せてもらうと、作者名の田中 藤左衛門が読みとれました。



雲版



高津 徳仁住職

受け継がれているのが「チンドンおどり」です。これは、8月15日に盂蘭盆会大法要が営まれる中、本堂前広場で行われる踊りです。鉦や太鼓がチンドンと鳴り響く中、踊り手たちが7メートルの長さの幟(のぼり)を掲げて行進した後、幟を激しく打ち合います。享保年間(1716~1736)に五箇篠山城主の野呂秀隆の武勇を偲んで始められ、幟が折れるほど、極楽浄土に行けると信じられています。



昌慶寺山門*



「チンドンおどり」*



福祿寿 金剛山 泉壽院

【伊勢市中須町】

福徳円満の福祿寿

美しい彩りのアート御朱印には桃と鶴が描かれる。宮川沿いの県道を走ると、伊勢市中須町の住宅街に一軒、突き出した瓦屋根が見えてきます。ここが泉壽院です。「古い資料が残っていないので、はっきりとはわかりませんが、寛永17(1640)年が創始で、かつては川の中洲にあり、そこには泉が湧いていたとされています」と住職の浦野 将志さん。曹洞宗に改

0(年)が創始で、かつては川の中洲にあり、そこには泉が湧いていたとされています」と住職の浦野 将志さん。曹洞宗に改められた。福祿寿とは中国道教の長寿神で、幸福・財宝・長寿の三徳を具現化したものです。体の半分を占めるほどの長い頭、長い顎鬚、大きな耳たぶを持ち、鶴と亀を連れ、左手に桃、右手に巻物



浦野 将志住職

宗してからは8代目となりますが、もともと浦野さんは東京育ち。母方の祖父の跡を継ぎ、大学卒業後に後継者として伊勢に来ました。境内の一角に菅原神社が祀られていますが、「もともとこの国は神仏習合。明治の廃仏毀釈により分かれてしまいましたが、神様も仏様もありがたいものです」と住職。

を括り付けた杖を持った姿が特徴です。「福と祿と寿と、3つの徳を持った神様だから人徳もあり、万能の神様です」と住職が教えてくれました。参拝者が楽しみにしているのが絵心のある住職の御朱印です。福祿寿のイメージから鶴と桃、隠し文字で「泉壽院」と書かれ、彩りも美しく、インスタグラムで話題となつているよ



絵心のある御朱印

うで、県外からも御朱印目当てにお参りがあるそうです。七福神めぐりと合わせて、良縁大黒にお参りし、契り糸で縁結びの願掛けをする人も多いようです。三重県曹洞宗青年会の和太鼓集団「鼓す」に所属し、バイクにも乗る多趣味な浦野さん。ツーリングで訪れる人を温かく迎え入れています。

お問い合わせ
金剛山 泉壽院
TEL 0596-251-3336

天然記念物のクスノキが繁る長寿づくしのご利益

寿老人

玉樟山 隣江寺

〔志摩市磯部町〕



延命長寿の寿老人



濱口 知希住職

静かな入江の的矢湾沿いの坂崎集落に、小高い丘の上で、一際目を引く大きなクスノキが繁っています。ここが隣江寺で、山号の玉樟山は、このクスノキに由来しています。

〔寛永8（1631）年に開基と過去帳



隣江寺本堂

にはありますが、実際にはその数年前に建立されていたと推定されています」と話す濱口知希さんは、曹洞宗改宗

代表を任されています。

「本尊は薬師瑠璃光如来ですが、秘仏と聞いているので開帳はしていません。そのかわりに七福神の寿老人が、にこやかな笑みをたたえています」と住職。寿老人は長い頭に長い白髭、巻き物をつけた杖を持ち、鹿を従えた姿が一般的です。鹿は玄鹿と呼ばれ、「ろく」は延命長寿、福祿の神とされる「禄」に通じています。また「樹老人」とも書かれ、樹木の生命力から長寿を象徴しています。そんな長寿の木とされているのがクスノキです。寺の大樹は推定450

年ほどで、境内には並んでイチヨウの大木もあり、どちらも市指定の天然記念物です。



長寿の象徴、クスノキ

本堂の建て直しはおよそ50年前ですが、100年ほど前までは「隣江庵」と呼ばれていたようです。その横にある弥勒堂は見るからに古い建物で、弥勒菩薩、毘沙門天、不動明王をお祀りしています。瓦には左三つ巴の御紋が刻まれています。これは隣江寺の本寺である常安寺を菩提寺とする九鬼家の家紋です。複雑に深く切れ込み入りアス海岸の入江の隣で、クスノキとともに歴史を刻んでいます。

お問い合わせ

玉樟山 隣江寺

TEL 0599-5510100

縁結びの女神に僧と恋に落ちた娘の物語が秘められる

弁財天

瑞鷲山 白言寺

〔鳥羽市船津町〕



琵琶を持つ弁財天



白言寺本堂

た際に、音楽・弁才・財福・知恵の徳があるとされ、琵琶を持つ姿で知られるようになり、縁結びなどの信仰を集めています。

白言寺には僧と恋に落ち

た娘が来世で弁財天に生まれ変わったという話が語り継がれ、寺から少し奥まったところにある滝に、そのルートを通ることができます。禊で知られる「白滝大明神」の参道には、「三笠塚」という小さな石碑が建っていますが、これに「しらかきへ 願を愛にとりなして みずの沫になさず守らんと刻まれています。この句は禅僧が死別した伴侶に詠んだもので、江戸末期に鳥羽の離島にあった禅寺の僧と里登という娘が恋に落ちた物語が伝わっています。二人の立場から、周囲に認められる恋路でなく、反対されていた里登は、村を捨



「三笠塚」の石碑

て、行者山の麓の白滝さんへとやってきました。それから小さな庵を建て、50年余り、里登は人生を終えるまで世俗を離れて暮らしたとされています。白言寺が保管する資料には、里登の記録が残されています。



「白滝大明神」

白言寺の背後にあるのが、標高309メートルの船津行者山です。山頂には石で囲まれた祠に役行者の像が祀られ、白滝さんには弘法大師が瞑想に使ったという「弘法岩」もあり、祈りの場所が点在。周辺一帯が霊験あらたかな場所として、厳かな雰囲気漂っています。

お問い合わせ

瑞鷲山 白言寺

TEL 0599-2514394

熊手などの縁起物は和紙で一つひとつを手作り

ゑびす天

不盡山 龍祥寺

【度会郡大紀町】



商売繁盛のゑびす天

が、明治の中頃に合併し、現在の地に龍祥寺が新たに創建されました。堂内に飾られた再興後の茅葺き屋根の写真が、時代を物語っています。

世襲管理となつて4代目の小倉寛史さん。寺の18代目住職を務める父親の康司さんから継ぐことを強要されなかつたようですが、檀家の人々に面倒をみてもらつて過ごすうち、跡取りとなることを決意したと話してくれま

す。「江戸時代にこのお薬師さんに参ると母乳がよく出ると、熱心に願掛けをする人もいたようです」と住職の康司さん。

七福神に祀るのはゑびす天。七福神の中で唯一、日本の神様です。左手に鯛を抱え、右手に釣り竿を持つ姿で、大漁満足・五穀豊穰・商売繁盛などをもたらすと信仰されています。本堂横には朱色の幟はためく稻荷明神のお社もあり、合わせてお参りする人も多く、「遠方からも商売がうまくいったとお礼参りにも来てくれる人もいて、ありがたいことです」と寛史さんが教えてくれました。続けて「まちの人口が過疎化で少なくなっています。檀家さん以外の方にも継続的に来てもらえるようにと、この企画に賛同しました。七福神のことは皆さん、よく知っていますし、勢州七福神が結ぶ地域は、海あり山あり川ありの風光明媚なドライブコース。気軽に周つてもらうにはいいコースですし、大紀町には阿曾温泉や瀧原宮、

熊野古道が通じる大紀町阿曾の集落に、かつては川を挟んで2つのお寺がありました。寛延元(1748)年開創の不盡山宝泉寺と、寛文元(1661)年開創の諏訪山龍祥寺です。明治時代の廃仏毀釈で一度は廃寺となりました

した。

本尊は万病にご利益があり、靈験あらたかな瑠璃光薬師如来。薬壺を左手に持ち、その左手より鮮やかな五色の糸が延びています。それを握つてお参りすることで願いが仏様に届くよう

頭之宮四方神社など見所もたくさんあります。どうすれば、もっとたくさんの人に足を運んでもらえるか、試行錯誤し、お互い仲間と刺激あつて、切磋琢磨しています」と、意欲的な寛史さん。御朱印も新しい種類を提案しました。堂内にはゑびす天にちなんだ縁起物の熊手が並んでいます。一つひとつ細工が違い、繊細で華やか。「勢州七福神めぐり」の御朱印を押す金色の色紙にも、宝船の和紙細工が施されていますが、こ

ので、母親の真弓さんが檀家さんと一緒に手作りしています。「年末から節分にかけては干支などの縁起物も作り、出店の依頼もあつて忙しくなるんです。何も考えずに集中して作るので、家族を亡くした悲しみから立ち直ってくれた人もいますよ」と地域の人に寄り添う真弓さん。瓢箪や桜のストラップなど種類もたくさんあつて、どれにしようか迷います。龍祥寺が一年で一番賑やかなのは、花祭りが行われる4月第1日曜日です。

大般若祈禱会や甘茶の振る舞い、餅まきに大勢の人が詰め掛けます。樹齢140年のしだれ桜の開花に合わせ、ライトアップも行われ、少し離れた国道42号からもその姿が確認できます。ほかにもツバキやアジサイなどが咲き誇り、住民が集うだけでなく、遠方からの参拝も増え、季節ごとに彩り豊かな寺を盛り立てています。

お問い合わせ

不盡山 龍祥寺

TEL 05998-86612625



龍祥寺本堂



瑠璃光薬師如来像



左から小倉 寛史さん、住職康司さん、真弓さん



和紙細工の縁起物

町屋百人衆

津市北部、町屋海岸近くに住む人々により、地域活性化のために結成された「町屋百人衆」。町屋海岸の清掃を定期的に行い、祭りを盛り上げるなど幅広く活動し、地域ぐるみでの取り組みは、平成18(2006)年に「中部の未来創造大賞」住民部門優秀賞、平成27(2015)年に「緑綬褒章」受章など数々の表彰で評価されています。



「町屋巨大龍踊り」※

お問い合わせ

「町屋百人衆」
津市栗真町屋町
TEL090-3560-6342
(会長 坂野 大徹さん)

「町屋百人衆」は、「ちよつと無理をして、自分たちのまちを誇れるまちにしませんか」を合言葉に、平成7(1995)年、栗真町屋地区の人々を中心に結成されました。現在の会員数は59人。8代目会長の坂野さんたちにお話を伺いました。

——活動は今年で25年目。結成のきっかけを教えてください。

坂野：もともとは栗真小学校PTAなど、保護者同士のつながりからはじまった組織です。結成翌年から氏神の千王神社の例祭で「町屋巨大龍踊り」を披露していますが、かつての祭りは夜店が少し出る程度。隣町には「やぶねり」という賑やかな行事があったので、みんなが

参加できることで盛り上げたいと、「龍踊り」をすることになったんです。

大河内 忠幸：初代の龍は竹製の骨組みに布地をかぶせて製作し、2代目・3代目は激しい踊りに耐えられるよう、骨組みをアルミフレームに変え、布もテント素材に。全長55メートルに電飾を施しています。大掛かりな構造ですが会員には電気や土木、建築の技術者などいろいろな職業の人がいるのでそれぞれの得意分野でカバーしています。担ぎ手の交代や裏方を含めると150人ぐらいが必要で、ちびっこ龍もあり、三世代で参加している家族もあります。龍を担ぐために祭りに合わせて帰省する住民もいます。

ミが、年々少なくなっています。

地域の人の環境マインドが向上し、海岸にこられる方々のマナーの意識が高まってきているのではないかと思います。

——ほかにごういった活動がありますか。

加藤：秋のふれあい運動会での、栗真鍋の振る舞いが恒例となっています。地元産の野菜などを使って、約400人分の豚汁を作るんです。今、農業者が減り、耕作放棄地も目立ってきているので、そこは別の組織が整備に取り組んでいます。

大晦日は神社で餅を搗いて、年越しそ

秋の「津まつり」にも呼んでいただき、「高虎太鼓」や「しゃご馬」など伝統的な郷土芸能に混じって、参加しています。

——町屋海岸の清掃は参加者が毎回50人を超えるほど大規模にやっているのですか。

大河内 義孝：今は堤防が完成しましたが、以前だと砂浜に車が進入することができたので、不法投棄やバーベキューのゴミなど一部でマナーの悪さが目立っていました。ウミガメが産卵に来る浜でもあり、幼い頃に遊んだ素足で走れる町屋海岸に戻そうと1月を除く奇数月の第3日曜日に年5回、三重大学環境ISO学生会と一緒になって、地域ぐるみで清掃をしています。

ばでおもてなし。門松もお手製です。

——準備期間やほかの組織での活動も含めると、ほぼ一年中、みなさん顔を合わせているのですか。

坂野：小学校の時の関係がそのまま、今につながっているという感じです。正直、会議を開いて議論が白熱することもありますが、ずっとここで暮らしていくわけですから、それぞれの意見を尊重して町屋地区を良くしようという気持ちで共有しているように思います。

——固い結束力で、力を惜しまず5年後の設立30周年に向け、町内活性化に取り組んでいます。

インタビュー：中村 元美



「津まつり」で舞い踊る龍※



各自がゴミ袋を手に海岸清掃※



運動会の名物鍋「栗真鍋」※



「町屋会館」に数々の表彰状



左から大河内 忠幸さん、坂野 大徹さん、加藤 和巳さん、大河内 義孝さん

※印の写真は取材先から提供していただきました



鳥羽湾を一望、樋の山を歩く

鳥羽市

市街地へ樋の山

樋の山の標高は、わずか163メートルですが、山頂付近からの鳥羽湾の眺めはすばらしく、鳥羽十景の一つに数えられています。また、『樅ノ木は残った』『さぶ』などで知られる小説家・山本周五郎（1903～1967）の中編小説『扇野』の舞台にもなりました。

今回は、樋の山周辺をハイキング。道中には、織田 信長や豊臣 秀吉のもとで水軍大将として活躍し、鳥羽城を築いた九鬼 嘉隆ゆかりの寺社や、子どもも大人も楽しめるピオトープ「めだかの学校」などがあり、変化に富んだ散策が楽しめます。

取材・文…中村真由美

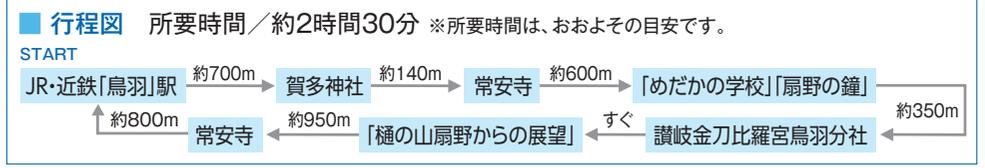
嘉隆ゆかりの賀多神社から常安寺へ

今回の散策は、JR・近鉄鳥羽駅から始まります。駅舎を後にしてレトロな商店などを眺めながら歩くと、やがて右手に見えてくるのが、賀多神社です。その歴史は古く、神亀元（724）年まで遡るといわれます。

同神社には、戦国最強の水軍大将と称された九鬼 嘉隆にまつわる逸話が語り継がれています。それは、文禄元（1



賀多神社



“九鬼の千本杉”

592年の朝鮮出兵に向けて「日本丸（当初の名前は鬼宿）」を造船した際、同神社のご神木を使用したことから、報恩のために境内に千本の杉を植えたというもの。鳥居脇にそびえ立つ杉の大木は、九鬼の千本杉の中で唯一現存するものだと伝わります。

なお、毎年4月に行われる「鳥羽春祭り」では、県指定文化財の組み立て式能舞台で薪能が演じられ、見る者を幽玄の世界へと誘います。

賀多神社にお参りした後は、九鬼家の菩提寺、常安寺へ向かいます。同寺の本堂横から裏側へと続く坂道を進むと、重厚な門構えの廟所が出現。廟所内

には一族の五輪塔が整然と並びます。中央が嘉隆、その向かって左側が息子の守隆の墓碑です。2基の墓碑は、静寂に包まれた廟所で、穏やかに昔語りをしているようにも見えました。



常安寺



九鬼一族の墓碑が並ぶ廟所



讃岐金刀比羅宮鳥羽分社



「樋の山扇野からの展望」

「扇野の鐘」からも鳥羽湾を一望することができ、鳥羽十景の一つ「樋の山扇野からの展望」を楽しめる場所を求めて、再び山頂へと歩きます。すると、やがて姿を現したのが、讃岐金刀比羅宮鳥羽分社です。同社は、香川県の金刀比羅宮の6分社の一つで、昭和31(1956)年に創始されました。以来、漁業関係者を含め、広く崇敬を集めています。

同分社に参拝した後、案内板に従っ

鳥羽湾の景観を堪能

九鬼家一族の墓碑に手を合わせた後は、樋の山の山頂をめざします。少し急な坂道を上り、山の中腹あたりまで進むと、大きな建物が現れました。旅館「扇芳閣」です。同館から5、6分程度進んだ先に広がるのが「めだかの学校」。約1300平方メートルの敷地には、クロメダカの群れが泳ぐ「めだか池」を

癒しスポット「めだかの学校」と幸福を呼ぶ鐘「扇野の鐘」



クロメダカが泳ぐ「めだか池」

はじめとして、音楽を奏でる人形を3000点以上展示する「音楽人形館」などが揃います。これらを手掛けたのは、「扇芳閣」館主で同校長の谷口仙二さん。お話を伺うと、「きっかけは、メダカが棲めるきれいな自然環境を子どもたちに残してあげたいと思ったこと」という明るい言葉が返ってきました。谷口さんの想いが詰まった学校は、大人も子どもも楽しめる癒しスポットとして、今も進化を続けています。

て東へ向けて進むと、急に視界が開け、鳥羽湾の光景が目に見えてきます。ここからの光景が、鳥羽十景の一つ「樋の山扇野からの展望」です。空の青色と、濃い海の色が混然一体とする中に、答志島や坂手島、神島などがポカリポカリと浮かぶ光景を眺めていると、時の流れを忘れてしまいそうになります。山本周五郎も、こうした光景を目にしたのでしょうか。

輝く海の青さを満喫した後は、一旦、常安寺まで戻り、そのまま終点のJR・近鉄「鳥羽」駅へと帰りますが、ここで

はじめてとして、音楽を

この「めだかの学校」のすぐ近くには、小説『扇野』にちなんだ「扇野の鐘」が設置されています。絵師の栄三郎と芸妓おつるが織りなす物語が展開する小説の中で、おつるが樋の山の草原に扇を置くシーンが重要な役割を果たします。作者の山本周五郎が鳥羽を訪れたのは、昭和9(1934)年のことですが、『扇野』が発表されたのは、20年後のことでした。周五郎の心には、情緒あふれる鳥羽の街や樋の山の印象が、深く刻まれているのでしよう。



「扇野の鐘」



「鳥羽マルシェ」と「ドルフィン広場」

寄り道したいスポットがあります。同駅の北口から徒歩2分程度の海沿いにある「鳥羽マルシェ」と隣接する「ドルフィン広場」です。前者で鳥羽産の海産物や農産物などを購入したり、後者に設置された東屋などでひとときを過ごせば、散策の思い出がさらに充実したものになることでしょう。

問「鳥羽ガイドボランティアの会」

(鳥羽市歴史文化ガイドボランティアセンター)火曜日休館

TEL 0599-1251-8255

三重 の シンボル

鈴鹿市

三重県内の市町などが、それぞれの特徴を象徴する存在として選定している木・花を紹介します。



市の木
ケヤキ



市の花
サツキ

■ お問い合わせ ■

鈴鹿市 政策経営部 総合政策課 TEL 059-382-9038 (直通)

*市・町名の50音順に紹介しています。

*シンボルを選定していない、もしくは鳥や魚などを選定している市町も一部あります。

表紙写真 「勢州七福神めぐり」